



第 3432 図

ふじおとぎり

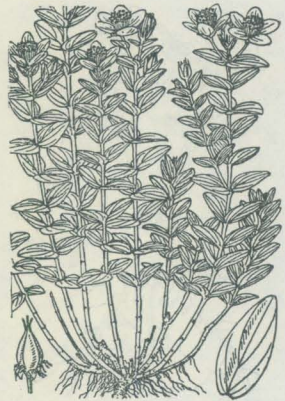
*Hypericum erectum* Thunb.  
var. *caespitosum* Makino  
(= *H. fujisanense* Makino)

富士山及び信州乗鞍山附近の山地に生ずる無毛の多年生草本で、高さ30-40cm許、時に50cmに達し大株をなして叢生し、茎は円く、茎上の稜線は不明瞭である。葉は対生し、狭線状楕円形長さ1.5-4.0cm許、無柄で基部は半ば茎を抱き、葉中に黒色油点のみがあり、葉縁にも亦黒点を連ねる。枝梢は上方で僅かに分枝して夏日5弁の黄色花少数を開く。萼は5個長楕円状披針形、先端やや尖り、黒点及び黒線があり、辺縁また黒点を有する。花弁は長さ9mm許あり、黒線があり、時に少しく明線を交える。雄蕊多数、1雌蕊を有し、花柱は5岐し、その長さは子房を少しく超える。

だいせんおとぎり

*Hypericum Asahinae* Makino

伯耆大山、加賀白山、越中白馬山、立山などの高山に生ずる無毛の多年生草本。高さ20-30cm、茎は叢生して立ち或は斜上し、普通分枝せず、茎は円く稜線がない。葉は対生し、楕円形又は卵状長楕円形、全縁、基部は円く、茎を抱き、黒点、時に明点を交え辺縁に黒点を連ねる。夏日、枝頂に聚繖花序を着け1乃至5花を開く。萼片は緑色5片、披針形、黒点がある。花弁は5個、倒卵形、長さ1-1.5cm、黒点或は短き黒線があり、辺縁には点がない。雄蕊は多数、花柱は5岐し、子房の長さの1.5乃至2.7倍ある。フジオトギリとは葉の巾の広いこと及びこれに明点を交える点並びに花径の大なる点で区別できる。



第 3433 図

あっさむちゃ

*Thea sinensis* L. var. *assamica*  
*Pierre* (= *T. assamica* Masters)

印度アッサム地方原産の常緑小灌木で高さ1-3m、よく分枝し、葉は革質、互生、長楕円状披針形で、往々鋭尖し、辺縁に細鋸歯があり、短柄を具える。花は白色、葉腋より1-2個乃至数個出で、径2cm許、花弁は通常6-9個、萼片は革質で円く、内部は無毛、蕾の時には互に重なり合つて球形をなす。花中に雄蕊多数あり、子房は無毛又は有毛、花柱は1個、直立して分岐せず、柱頭は3裂、果実はチャに比して稍小形、印度セイロン地方其の他の熱帯における紅茶は本変種を原料とする。本邦に於ても稀に栽培を見る。



ひこさんひめしゅら

*Stewartia serrata* Maxim.

本州関東西部以西、四国、九州の山中に生ずる落葉喬木、枝は暗褐色を帯び、葉は互生し、やや薄い革質、卵状楕円形又は楕円形、鋭尖頭、楔脚、辺縁に低鋸歯あり、中肋、脈腋の他は無毛、夏日枝梢の葉腋から有柄の1花を上向して開く。花は径4cm白色、単体をなす黄芯多数あり。萼片は5個3角状広披針形、鋸歯あり、長さ1.5cm許、花下に接して梗頂に狭卵形葉状の小苞2個を具える。花弁は5個倒卵形、縁辺に鈍頭の歯あり、基部癒合、背面に白色の絹毛を密生する。雄蕊は花弁と基部癒合しその中に1雌蕊あり柱頭は5岐する。蒴果は卵球形5稜があり、稍木化し先端尖鋭、無毛、径1.5cm許、後に5裂し、褐色で狭翼のある種子を出す。和名は英彦山に産する姫婆羅の意である。



第 3435 図

なしかずら

一名しまさるなし

*Actinidia rufa* Planchon

本州(紀伊、長門、伊豆七島の一部)、四国、九州、琉球、南鮮など暖地の林中に生ずる纏繞性藤本。小枝は幼時赤褐色の毛を有し、葉は互生、卵形又は卵状広楕円形、鋭尖頭、基部は円形又は浅心臟形をなし、葉縁に低鋸歯を有し、上面に光沢があり、下面の脈腋に褐毛がある。夏日上方の葉腋より総梗を發して、数花を開く。花序は萼片と共に赤褐色の綿毛を密生し、花は径1-1.5cm、白色円形の花弁5個を具え、雄花は多数の雄蕊、雌花は1雌蕊があり、子房に褐色の密毛を有する。漿果は広楕円形、長さ2-3cm、褐色の斑点がある。



第 3436 図

すいふう(醉芙蓉)

*Hibiscus mutabilis* L.

f. *versicolor* Makino

幹は直立分枝し、高さ2-3m、葉は掌状に5-7裂し、中央片最も大形、3角状卵形で尖り、鋸歯があり、心脚で長葉柄を有する。夏秋の候、枝端に腋生有梗の径8-7cm許の1日花を数個相ついで開く。花下に線形有毛の小苞10片あり、萼は有毛、短筒、先端は急に開いて5裂し卵状3角形鋭頭5脈を有する。花弁は20数片、外片は基部癒合し倒卵形、鈍頭、基部は不同で、急に狭まり、内片は漸次小形となり、不完全なる雄蕊筒部に接着する。雄蕊は母種に比して少数、柱頭も不完全、結実せず。花色は朝咲綻びはじめた時は白色、午後淡紅、夜分にかけて紅色に移り、翌朝に至るも落下せず、樹上に紅、白、淡紅の三色花が相交つて着き頗る美観を呈する。紅変するのを酒の酔いにたとえて酔芙蓉の名を得た。本邦の庭園、温室などに間々これを見る。

